

econ.

No. 18

✈ 旅する経済学部生

特集 学生時代に国際交流! 留学体験者座談会

●留学のススメ「国際交流に必要なものとは?」/ 留学ガイド

- news1 2部基礎ゼミ対抗ドッジボール大会
- 1部ゼミ対抗ソフトボール大会
- interview OB訪問-働きマン①弁護士 横山和樹さん
- 連載企画 私の履歴書 奥田仁教授
- news2 経済学部就職情報
- コープさっぽろ寄附講座II
- スーザン・ジョージ氏特別講演会



マトリョーシカ Matrëška

マトリョーシカはロシアの代表的な民芸品のひとつ。ロシア人女性の名前マトリョーナの愛称形が名付けられた木製の人形で、胴の部分で上下に分割され、中から同形の小さな人形がいくつも出てくる入れ子式の構造になっている。1900年のパリ万国博覧会に出品され受賞し、ロシア民芸品として広く知られるようになったが、意外なことにこの発祥は日本にある。19世紀末にロシア人修道士が現在の神奈川県、箱根に伝わる入れ子細工を土産として本国に持ち帰り、その形がマトリョーシカのもとになったと伝えられている。木工品で名高いセルギエフパサド(旧ザゴルスク)の玩具博物館にはこのモデルとなった七福神の入れ子細工が展示されている。日本とロシアの国際交流が生み出した民芸品といえるだろう。

特集 学生時代に国際交流！ 留学を経て私たち

学生時代に海外で生活することは、自身の可能性を試す機会です。今回は、3人の留学体験者と、前国際交流委員長として積極的にしてきた野崎久和教授を交えて、海外生活の面白さと意義を語

※座談会参加者については敬称略



▲高光さんのパスポートは出入国スタンプであふれている

自分の力を試してみたい。

野崎 本日は留学経験者の永田麻里絵さん、青木麻梨子さん、高光里佳さんに集まってきました。まずは留学した動機と目的から聞かせてください。



永田 麻里絵さん
1部地域経済学科4年
野崎ゼミ
●留学先
シベリア交通大学

永田 去年10ヶ月間ロシアのシベリア交通大学へ留学してきました。親が「麻里絵」ってインターナショナルな名前をつけてくれたのもあって、国際的なものに興味を持ち始め、大学ではいろんな語学や国際事情に関することを勉強しました。また英語会話研究会というサークルに入って授業以外に英語を鍛えました。自由な時間がある大学生のうちに、異国の地で自分の力を試してみたいという気持ちがあり、留学先としてはマイナーなロシアにしました。英語以外の語学を習得したかったというのがあります。留学に行く前には友達にロシア語を教してもらったり、履修していない授業に参加したりしました。

青木 2年生のときにホストファミリーを引き受け、我が家にレスブリッジ大学の留学生が滞在したのですが、実際の会話ではあまり話すことができず、今まで学校で習ってきた英語での勉強不足を感じました。もともと海外への憧れがあって、海外に行くのに語学は必要だと思っていました。そして3年生になってカナダのレスブリッジ大学の研修に参加しました。語学学習、観光などのメニューが決まっています、その研修だけでは物足りなさを感じました。そこで、英語を勉強したくて4年生の5月からオーストラリアに留学することにしました。いろいろな国のことをもっと知りたいというのが根底にありましたね。

高光 北海学園大学に入学してから、大学生活というのは、自分で何か行動しなければ何も始まらないということが分かりました。学

生の間に将来自分のしたいことを見つけようと思っていましたので、行動は必要ですね。そして、2年間韓国語を勉強しながら海外の人と接するようになって、知らないことや思ってもいなかった考え方があることを感じ、将来を考える前にもっといろいろなことを知らないと駄目だなと思いました。おのずと海外へ行くことがいい経験になるのではないかと思います。姉が高校卒業と同時にニューヨークに留学したということも影響していますが、私も海外で勉強しながら将来のことを考えてみたくなりました。そして、2年生のときに韓国大田(デジュン)大学校での3週間の研修に参加。翌年には休学して韓国のソウルで3ヶ月間の語学留学をしました。行くと決めてから飲食店2軒、派遣のバイトを掛け持ちしてお金を貯めました。

永田 私もパチンコ店でバイトしました。重い物を運んだりして、きつかったけど留学費用、100万円貯めましたよ(笑)。

野崎 実際に留学して、どんな成果がありましたか？

青木 日本では控えめが美德とされ、人や社会に流されることが多々ありましたが、留学してからは行動力がつきましたね。海外では自分で行動しないと何も進まないことを、身をもって知りました。帰国後は、国際交流会館などで札幌に来ている留学生に日本語を教えたりしながら交流するようにしています。

高光 自分で大学と直接コンタクトを取り、寄宿舎を見つけました。最初は、それらのことが思うようにいかなくて帰りたくなりました。向こうの友人と話してみても、どこの国に行っても嫌なことがあり、それは日本に来る外国人も同じじゃないかと、冷静に考えるようになりました。国同士のギャップ、違いがあると認識出来るようになったと思います。



高光 里佳さん
1部経済学科3年
川瀬ゼミ
●留学先
大田大学校/慶熙大学校

永田 家族や友達との絆の積み重ねでこつこつと作り上げられてきた、今までの自分の人生に誇りを感じるようになりました。以前は何の変哲もないものだと思っていましたが、日本での生活、そしてロシアでの生活で出会った人々に対してすごく感謝の念が込み上げてきて、それを海外でしみじみと感じられたのは良かったと思います。それと全く日本とは違う文化を持つ向こう(ロシア)では、驚愕の出来事が多くあり、そのやり取りを通して我慢強くなりました(笑)。

野崎 いろいろな問題に直面し、それらを乗り越えられたことが、最大の成果だと思います。そういう場所に追いつまされ、自分で決めて実行・行動するしかないからだと思います。また、海外へ行くと、日本や家族を客観的に見つめ直す機会にもなりますよね。

習慣も考え方も違うのは当たり前、お互いを認め合うことが大切。

野崎 私も仕事と留学で合計9年近く海外生活を体験しています。いろいろな価値観の人と出会って刺激を受けましたが、皆さんは留学先では、どんな交流がありましたか？



青木 麻梨子さん
1部経済学科4年
小田ゼミ
●留学先
レスブリッジ大学/ブラウンズ英語学校

青木 最初の1ヶ月間はホームステイでしたが、のちにシェアハウスの広告を見て、そこに移りました。いろいろな国の人が入って面白かったですね。私の場合、現地で3ヶ月間、語学学校で英語を勉強し、次の5ヶ月間はワーキングホリデーを利用してアルバイトをしながらあちこち行きました。最初、中華レストランでのバイトは、スタッフもお客さんも中国語で話すので、「これでは英語の勉強にならない!」と思って、すぐ辞めて英語環境にある場所で働きました。今度は共通語が英語だったので、ある程度、会話ができるようになり、友達もできました。国籍が違ってもベストフレンドが

が得たもの

もあります。
海外の大学との交流を推進
してもらいました。



出来たのが嬉しい。

高光 初めて会う人でも、すぐ心を開いて親しくなれるのがいいですね。日本だと、最初から心開かず、うわべだけのつきあいが多いかも。韓国では、一度会っただけでもすぐメールをくれるし、ご飯や旅行にも誘われました。「もう、日本に帰る」と言っただけで、皆が集まってケーキを部屋に持ってきてくれたり、パーティを開いてくれたりと、とても情が深くて感激しました。でも最初、着いたときはお店でイチゴを買うにもぼられたり、物一つ買うにも心構えが必要でした(笑)。

永田 中国、韓国、モンゴル、ロシアの人たちにもいつも囲まれていました。初めて会った人でも「ここに電話して」と、みんなフレンドリーで、毎日携帯電話が鳴り続けてました。日本人留学生は少ないので、よく日本語を勉強する学生が訪ねてきましたね。どこの国の人も文化の違いが必ずあり、それを発見するのが楽しくて、とても刺激的でした。お互い政治的なこともあります。一人の人間としてロシア人と心が通ったときは、人とのつながりを感じました。常に違いを理解しながら、お互いを認め合うことが大切だと思いました。再認識、それがほぼ毎日ですね。

野崎 そうですよ。違いを乗り越え、おたがいを理解しあうことが、国際交流を進める上でたいへん大事なことです。そして、そうした経験は、あなたの方が実社会に出て仕事をするときにも、きっと大いに役立つはず。それはそうと、辛いことはありませんでしたか？

野崎 久和教授

地域経済学科教授
本学前国際交流委員長
●留学先
ケンブリッジ大学
米国ワシントンに5年間在住



青木 英語がまだ身に付いていない時、たまに落ち込むことはありましたが、そこで頑張ることによって成長できましたね。

永田 きっとたくさんあったらうけど、恨みつらみを抱えるよりも、それを乗り越えて次

に生かすようにしてました。嫌なことがあっても次の日には気持ちを切り換える、これを身につけました。

一步踏み出せば、必ず何かを得られるはず。

野崎 皆さん、たくましい限りです！後輩に何かアドバイスはありますか？

高光 卒業後の将来を見据えて、この4年間で何が残るか、その間に何が出来るか考えてほしいです。まずは行動。その先に何か見えてくると思っています。留学はその行動の一候補ですね。自分で何か行動しないと、何も起こらないことを身をもって知りました。また、私の場合、将来は漠然とデザインやアートの仕事に就きたいと思っていましたが、留学したことで「人と関わる」仕事に興味が出てきました。実は、英語の勉強をしたくて、7月からフィジーに留学するところ。今年1年間は休学して前半は韓国、後半はフィジーに留学することにしました。フィジーで今度はどんな人と出会えるか楽しみでもあります。

青木 留学によって成長する度合いが違いますね。いろいろ見るといいし、たくさんのお会いもあります。まずは行動かな？

永田 大学の色に染まって、隣の人と同じであることに安心して力半分まで最後の学生生活を過ごすのではなく、もっとアグレッシブな他の世界があることを知ってほしい。私自身も留学を通して日本では出会えなかったもっと素晴らしい人たちに会い、時には自分の未熟さを知ることも出来ました。これは、出ないと分からないですね。留学が必要ない人もいるでしょうが、私のように必要な人にとっては自分の力を試す最高のチャンスだと思います。長期留学するシステムがないことなど、行動出来ない理由を周囲のせいにするのは簡単なことです。しかし、自分の人生には誰にも言い訳できません。留学は大切な大学生活を必ず輝かせてくれるので、是非チャレンジしてみてください。

野崎 3人とも、実に頼もしい。皆さん、留学を通じて豊かな経験をし、困難を乗り越え、ひと回りもふた回りも大きくなられたんだと思います。留学するということは、

現地の語学を習得することのみならず、新たな学問の機会に接したり、異なる世界に飛び込み、さまざまな人々との交流ができるチャンスでもあります。そして、そうしたチャンスをものにして、人は大きく成長します。皆さんの本日のお話は、後輩たちに有意義なアドバイスを与えるものと確信します。皆さん、本日は積極的に発言していただき、大変ありがとうございました。



韓国での写真アルバムを見る高光さんと永田さん



ケンブリッジ大学の卒業式にて(野崎先生の留学時代)



南半球オーストラリアのクリスマス(前列右が青木さん)



ノジビルスクの日本寿司店で(中央が永田さん)



辻 弘範 ● 経済学部講師

皆さんは「国際交流」という言葉から何を連想するでしょうか？まず思い浮かぶことは、外国に旅行に行ったり、外国人たちと外国語で話をしたりと、とにかく外国や外国語、外国人と何かしらの関係を持つことでしょうか。「国際」の「際」という文字には「きわ」という訓読みがあるように、本来は「二つの物がすれすれに接する境目」や「他のものとのふれあい方」などという意味があります。つまり「国際」とは、国境をまたいで自者と他者が接することを意味しており、その際に両者が交流をすることを「国際交流」と呼んでいるのです。

そのため、他者（この場合は外国人です）と交流するためには、まず相手となる外国の言葉や地域事情を学ぶ必要があります。現在、北海学園大学の外国語科目には英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語の6種類があり、それぞれの文法や会話を学ぶ語学科目のほか、各言語が話されている地域の文化を学ぶことのできる教養科目も開講されています。また、経済学部の専門科目には、国際経済

論や国際関係論をはじめ、世界各地の社会経済を学ぶことができる講義やゼミがたくさん用意されています。さらに、英語やドイツ語など外国語の本や記事を読みながら各国の社会経済を学ぶ「外国書講読」の科目もあります。したがって、特に外国の経済活動について勉強したい人は、1年生の段階からどの外国語をどう学んでゆくべきか、しっかり計画をたてておいたほうがよいでしょう。とくに英語以外の外国語の場合は一から学ぶこととなりますので、語学の授業に毎回出席して、基礎から一つ一つ積み重ねてゆくように心がけましょう。

このように北海学園大学と経済学部では、外国語と外国の社会経済に関する科目が用意されていますが、国際交流を行なうにあたっては、「国際」という言葉に含まれているもう一方の主体である「自者」、つまり日本や北海道の地域経済、それに国語（日本語）の知識と教養も必要であることは言うまでもありません。外国語を学ぶ時には、その日本語訳が瞬時に思い浮かんで理解する力、つまり国語力がたいへん重要なのです。また、皆さんが外国人と交流する時には、日本社会や北海道という地域に暮らす人々を代表することになりますので、日本経済や北海道経済についてもしっかり学び、理解しておく必要があるでしょう。「国際交流」とは外国語や外国の文化にふれるだけでなく、実は私たちの足もとを振り返ることでもあるのです。

留学ガイド

本学では海外9大学と交流協定を結び、海外研修や相互の留学生派遣・受け入れを行っています。語学学習の向上や異文化社会と触れ合う経験を通じ、北海学園大学での学生生活を更に充実したものにする可能性が広がっています。

この具体的な留学サポートの推進のために、本学では協定校との協定留学及び協定によらない留学にも適用する「北海学園大学海外留学規定」があります。本学国際交流委員会が発行する「留学ガイド*」には、派遣内容や体験記など留学に関する様々な情報が詳しく掲載されています。「留学ガイド」の配布、留学に関する相談は、学部事務室にお問い合わせ下さい。

また、本学の留学生との交流を目的とした様々なプログラムや交流団体もありますので、是非参加してみたいかたがたでしょうか。



*「2008年度 留学ガイド」



2008年度 交流大学一覧



余市町の観光農園で行われた留学生交流会



小林真之学部長から優勝賞品授与!



熱戦が続いた大会終了後の記念写真

2部 基礎ゼミ対抗ドッジボール大会



今年から新たに2部基礎ゼミ生によるドッジボール大会が開催されました。たかがドッジボールと侮るなかれ。ルールは国際ルールに則る本格的なもの。今年、5月16日真駒内の青少年会館にて、全7チームが、総当たりで、笑いあり涙ありの熱い戦いを魅せてくれました。栄えある初代優勝の栄冠は数々の熱戦を制した小坂ゼミに。(ただし、一番盛り上がったのは、川村ゼミと平野ゼミの最下位決定戦という噂も?) 審判やタイムキーパー、大会当日までの段取り等も学生が中心となって進めるなど、学生自身の手で作り上げていき、学生同士の絆もますます深まったこの大会、これから春の名物行事となっていくことを予感させるすばらしいものとなりました。



1部 ゼミ対抗ソフトボール大会



決勝戦前の、神山ゼミと越後基礎ゼミの両チーム



プロ野球交流戦の盛り上がる6月下旬、北海学園大学経済学部でも、ゼミナール対抗ソフトボール大会が開催されました。この大会は、北海学園大学経済学部の毎年恒例の行事で、ゼミ生は試合に向けて、練習や練習試合をこなしながら大会に臨み、プロ野球にも負けなくらい熱く、レベルの高い?試合が行われています。今年、62のゼミにより、6月17日~20日までの4日間、月寒公園坂下球場で熱戦が繰り広げられました。その結果、今年越後基礎ゼミが見事62ゼミナールの頂点に立ちました。(基礎ゼミ1年生-の優勝は史上初の快挙!) 来年は果たしてどのゼミが栄誉と豪華商品を手にするのか?栄冠は君に輝く…かもしれない。

●インタビュー

優勝チーム越後基礎ゼミ 高橋涼君(前列右端)

「18人のゼミ仲間が一体となって、楽しく参加できました。野球経験者が多かったのも勝因の一つです。基礎ゼミの勉強もこの結束でさらに充実させていきたいです。」



最終学歴「北海学園大学経済学部」の弁護士



横山 和樹さん

よこやま かずき

今号よりスタートするOB訪問シリーズ。3万7千人を超える本学部出身者の中で、最初にご登場願ったのは「経済学部出身の弁護士」横山和樹さん。法学部出身者にさえ超難関とされる司法試験に合格した横山さんは、しかし紛れもなく本学部卒業が最終学歴。一体、どういう経緯で法曹の道を歩むことになったのだろうか。

本学部に在籍していたこととは「まったく関係ない」可能性だってなきにしもあらず、だがもし何かあるとすれば…。ちょっとスリリングな覚悟もしつつ、執務中の事務所を訪問させていただいた。

好きなことには本気になれる

そもそも横山さんが本学部を選択したのは、「社会が苦手で、数学選択で受験できたこと」。大学進学自体、あまり真剣に考えていなかったという横山さん。国立大学受験を周囲に勧められ一浪したもの、興味のない科目は勉強する気になれず、数学選択の三教科で受験できる本学部を第一志望にしたという。将来の進路についても、漠然と普通に就職するものと思っていたそうだ。

本学部では興味を引く講義が多く、かなり真面目に勉学に励む。そのうちに市民に奉仕する立場の公務員を志望するようになり、そのために受講した本学部実施の「公務員対策講座」に、転機はあった。

「そこで初めて、本格的な法律の考え方を学んだのです。高校時代、法曹への道を思ったことはあったが、それはただの憧れ。具体的に法律をどう我々の生きた社会に適用するか考えるのが法律家だと知り、その考え方自体がすっかり気に入って、そんな仕事に就くことを真剣に思うようになったんです。憧れではなく」。

好きなことには本気になれる。さっそく横山さんは司法試験対策予備校の門を叩く。相談してみると法学部在籍でなくとも不利はないと分かり、両親に頼み込み4年生になって予備校に通い始める。二足のわらじは避け、公務員試験は受験しないことにした。「とはいえ在学中は危機感もなく、挑戦することに自己満足していただけだったように思います」。

本気になったのは卒業後。同級生はもちろん大半が就職済み。司法試験を目指していても、身分はニートと変わらない。家族からも就職を勧める声が出たり、先行きの定まらない

不安はつきまとう。支えとなったのは「やはり法律そのものへの愛着。勉強すればするほど『好きだ。向いている』という気持ちが強くなっていったんです」。

こうして文字通り「朝から晩まで」、まるまる休んだのは元旦くらいという「本気」な勉強漬けの日々を経て、わずか1年半、卒業直後に続く二度目の挑戦で堂々と合格を果たす。法学部出身者でさえ、多年に及ぶ受験の末に断念する者も多いという司法試験に、だ。

大学はやりたいことを見つける場

そんな横山さんの大学時代はどんな日々だったのか。1年時に勧誘で入ったサークルを興味が続かずやめた後は、「2年からだとなかなか入りくくて」無所属。大学生活の中心軸はゼミの時間だった。



2002年卒業アルバムより木村ゼミ集合写真（前から3列目左から2人目）

「木村先生の経済統計学ゼミです（*写真上）。数学的であることもあります、選択の決め手は先生のお人柄でした」。いろいろ調査してレポートにまとめるなど、ゼミ生同士で協力して取り組んだ時間は、「たぶん社会人としての基盤を培ってくれた」。

ところで木村先生には、司法試験挑戦は打ち明けていたのか。「失敗したらカッコ悪いので、挑戦中のごく身近な人にしか伝えてなかった」。晴れて合格の後に教授に報告したところ、まずは「え？」と驚かれたという。先頃も教授に呼ばれ、法曹現場の話を学生に語るなど、つながりは続いている。「自分ならではの形で先生の役に立てるのがうれしい」。

そして今、本学部在籍の頃を振り返ると「ゼミはもちろん、経済以外の分野の講義などいろいろなことに出会える場で、とらわれない

空気があった」。これから学ぶ人たちにも「いろんなことに興味を持ち、やりたいことが見つかったらそれに向かって頑張してほしい。視野を広げられる北海学園大学経済学部は、そういうことがしやすい場だったと思う。私にはそれが、たまたま法律だったわけです」。

仕事を通して続いている勉強

現在、事務所所属の弁護士として、多くの案件（事件）を抱える日々。その仕事の大半は地道な調査や書類づくりだ。「案件それぞれが、ひとつの現実。法律もたくさんあるわけで、何をどう適用できるのか、理屈だけでなく依頼者のためになる方向を探していく、それがそのまま勉強です」。振り返れば六法のみが対象の司法試験準備時代は、あくまで法律的考え方を身につける「基礎固めの時間だった」。

そしてこの仕事のもうひとつの軸は、依頼者等との対話。弁護士を選んだのも「直接個人の役に立てる」から。本人は「ささいなこと」と思うことも、法律的には重要な場合があり、それを引き出すのも専門家としての責務だ。

経済学部出身という特徴は、個々の案件では特に発揮されることはないという。それでも「経済の下地もあることは、何らかの形でアドバンテージかもしれません」。それが活かされるのは、むしろまだこれから、横山さんが得意分野を見極めてからなのかもしれない。



profile			
1978年	北見生まれ	2003年	司法試験合格
1997年	札幌平岡高校卒業	2004年	司法修習生
1998年	本学部入学	2005年	弁護士登録
2002年	本学部卒業		現在、上野法律事務所勤務



【私の履歴書】

奥田 仁 ● 経済学部地域経済学科教授 [北海道経済論]

おくだ ひろし



学生時代の奥多摩登山

経歴

1948年 浜中町に生まれる
 1967年 東京教育大学付属駒場高校卒
 1974年 東京都立大学経済学部卒
 北海道農務部勤務
 1977年 北海道立総合経済研究所研究員
 1980年 北海道経済調査室調査専門員
 1992年 北海学園大学経済学部助教授
 1995年 北海学園大学経済学部教授 現在に至る

主な研究業績・著物

『地域の社会経済構造』1983年 大明堂（共著）
 『農業雇用と地域労働市場』1997年 北海道大学図書刊行会（共著）
 『EUの地域政策』1999年 北海学園大学経済論集第46巻第4号
 『地域経済発展と労働市場』2001年 日本経済評論社（単著）
 『フィンランドの農村地域発展』2005年 北海学園大学開発論集 第75号

「道産子」の思い入れ

生まれは釧路支庁管内浜中村西門朱別という根釧原野の真ん中です。父が戦後の食糧難を避けて新制中学の教員をしながら開拓を志してやってきました。ところが私が2歳のときに上の兄の進学のために家族は再び東京に戻りました。そのため私には浜中の記憶は全くないのですが、子供のころからいつも「お前は道産子だ」といわれながら育ちました。

私が子供のころの東京は「三丁目の夕日」の時代でした。蕎麦屋がテレビをおいて相撲見物の客寄せにしていたほどで、他にこれといった娯楽のなかった時代です。幼かった私は次兄とその友人が「探検」と称してほつき歩く後について行って、とある丘の上から遠くの街並みに沈んでいく夕日を眺めて感動したことを覚えています。



10歳の少年時代

挫折の経験と経済学への目覚め

たまたま私が行った高校は国立男子校で1学年160人のうち浪人を含めて100人以上が東大に進学し、兄二人も東大でしたから、今から考えると馬鹿なことですが、なんとなく自分も東大に行かなければならないような気分させられていました。しかし怠け者の私はみごとに受験に失敗して2年浪人し、3回目の受験は安田講堂の攻防のあった東大紛争の年で、東大入試が中止になりました。そこで東京都立大学の経済学部に入学したのですが、東大受験から開放されて正直ほっとしたものでした。

ところが都立大に入ってみると、そこでも大学紛争が待ち受けており、ちょうどベトナム反戦などの学生運動全般が盛り上がりを見せていた時代でしたから、勉強どころではありません。今の学生諸君には想像できないでしょうが、当時の学生は表面だけでも左翼のふりをしていなければ肩身が狭いという雰囲気でした。そんなこんなで2年の終わりには語学の単位が不足して留年が決まってしまうました。

これにはさすがの私も参りました。年老いた父に3年も余分に迷惑をかけるかと思うと目の前が暗くなりました。そんなときに出会ったのが林栄夫

先生でした。いよいよ単位が切迫した2年生の終わりに、翌日の試験に備えてそれまでほとんど授業に出たことのない先生の著書を夜更けの学生会館の片隅で読み始めて、その最初の部分に書かれていた財政の本質に関する議論に魅せられてしまいました。そこで、そのころのゼミは3年からでしたから、進級したら林ゼミに入ろうと決意したのですが、あいにく上に述べたような事情で留年が決まってしまうました。しかしおとなしく1年間待つ気になれなかった私は、大胆にも先生の研究室を訪ねて、単位はいらぬからゼミの傍聴を認めてほしいとお願いしました。先生は一応教務の了解をえるとおっしゃいましたが、幸い当時の大学には学生運動に対する同情的な雰囲気もあり、認めていただくことができました。したがって私は実質的にゼミに3年間いたことになります。

このころ先輩の大学院生と進学を目指す友人の3人で、夏休み中毎日集まってケインズの一般理論を原書で読んだ記憶があります。先日そのころの本を見つけて開けて見たところ3分の2ほどは鉛筆で書き込みがされていましたから、ある程度「読んだ」ことは事実のようですが、中身についてはほとんど理解できなかったと思われ、夏休みの苦しくも楽しかった思い出だけしか記憶にありません。

北海道へ回帰

そうこうしているうちに卒業を間近にして身の振り方を考えなければなりません。大学院にも行ってみたいとは思いましたが、3年も回り道をしてこれ以上親身に迷惑をかけるわけにはいきません。おまけに当時の都立大大学院の関門は厳しく、1年浪人するのが常識になっていましたからなおさらです。そのようなわけで少しでも経済学に関係した仕事として、当初は経済関係の雑誌社を志望してみたのですが、いろいろな事情で結局うまくいきませんでした。そこで切羽詰って公務員試験を受けることにしました。というと今の学生諸君にしかかれてしまいそうですが、当時の公務員はそれほど人気のある職種ではなく、今のように特別の受験勉強をするということもほとんどありませんでした。そしてどうせ受けるならということで、自分の出身である北海道を受験し、何とか合格して道庁の農務部に配属になりました。2歳で北海道を離

れて以来でしたから、赴任するために青函連絡船を朝早く函館で降りたときに、足元の土がなんともいとおしく感じられたことを覚えています。

道庁経済研究所

道庁の農務部では野菜の需給計画作りをまかされました。しかし、まもなく道庁には道立総合経済研究所というものがあって、北海道経済について様々な角度から研究がされていることに気づきました。となるとじっとしておれず、幸いポストが一つあっていたことから、親切に慰留してくれた農務部を振り切るようにして研究職に移りました。

当時「総研」と呼ばれたこの研究所には、かつて北海学園大学に在職された大沼盛男先生や現在も在職中の池田均先生をはじめ錚々たる研究員がおり、日中の研究会はもちろん、毎晩のように酒を酌み交わしながら議論を戦わせておりました。また地域経済研究の基本はいうまでもなく実態調査ですから、地域調査や企業調査を活発に行っていました。そこで私の研究成果はともかくとして、当時お目にかかった企業経営者や農家の方々に教えていただいたことは、今も私の基礎を形成していると思います。

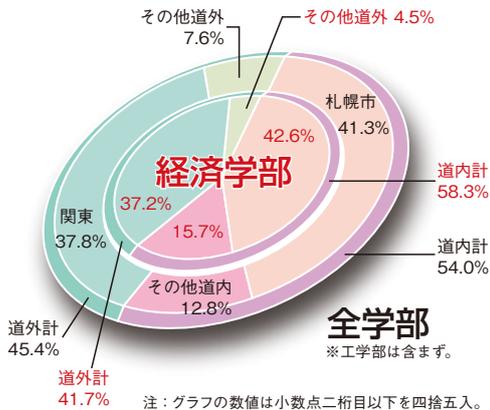
しかし残念なことに、まもなくこの研究所は機構合理化の対象となって廃止され、研究員は順次全道、全国の大学に転出していくことになりました。そのため私も、大沼、池田先生に続いて北海学園大学に職を得て赴任することとなりました。その後北海道経済はますます苦境に立たされることとなりますが、この研究所が存続していたなら、現在の議論もまた違ったものになっていたのではないかと残念でなりません。

学生諸君へ一言

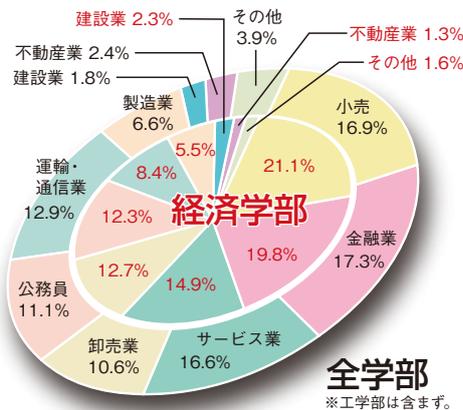
北海学園大学に来てからの研究については、字数が尽きたのでまたの機会としますが、ひとつだけいえることは、それまでの北海道の中に沈潜する研究方向と並んで、グローバルな地域研究のチャンスを与えられました。これから地域研究を志す皆さんは、この二つの方向を常に意識してもらいたいと思います。また、世の中はますますせちがらくなっていますが、高い視角から遠くを見通すことのできる、おらかな視線を忘れないようにしたいものだと思います。

平成19年度の経済学部就職状況のデータをお知らせします。本学就職部ではキャリアカウンセラーの配置や就職情報センターの整備充実に努め、学年を問わず、就職指導、支援体制を整えています。

↓ 本社所在地別就職状況



↓ 業種別就職状況



↓ 就職部の主な支援活動

- ・就職相談・個別面談
- ・ガイダンス（民間・公務員）
- ・面接対策（模擬面接・面接セミナー）
- ・履歴書、エントリーシート添削セミナー
- ・就職講座（民間・公務員）
- ・就職講演会（民間）
- ・学内合同説明会
- ・模擬試験（民間・公務員）
- ・YG性格検査、就職適正検査（R-CAP）の実施
- ・インターンシップの斡旋
- ・資格取得講座
- ・就職ポータルサイトの提供（今秋稼働予定）

↓ 公務員・教員登録状況 [平成19年度 卒業生・全学部]

名称	人数
国家公務員Ⅰ種	4
国家公務員Ⅱ種	33
国税専門官	16
法務教官 A・B	1
裁判所事務官Ⅱ種	10
自衛隊幹部候補生	7
自衛隊一般書候補生	4
北海道職員	2
上級〈一般行政〉	2
中級〈教育・警察行政〉	16
中級〈学校事務〉	3
その他道府県	5
北海道	89
警察官	
婦人警察官	2

名称	人数
警視庁警察官	8
その他警察官	8
札幌市	14
行政	14
技術系	1
学校事務	1
消防	10
その他市町村	47
大学別合格者の公表のない試験※1	8
小計（公務員）	289
公立学校教員	33
独立行政法人等※2	67
総計	389

※1) 本人申告分。受験資格が高卒以上になっているものは大学別合格者数が開示されておらず、申告ベースによる値。入国警備官・刑務官など。
※2) 国立大学等独立行政法人・郵政公社等。

↓ 過去3カ年の主な内定先 [経済学部のみ]

企業名	人数
北洋銀行	56
北海道警察（合格者数）	47
北海道銀行	22
ホクレン農業協同組合連合会	15
札幌トヨタ自動車	14
生活協同組合コープさっぽろ	13
ニトリ	13
セイコーマート	11
イオン北海道	11
ラルズ	11

コープさっぽろ寄附講座Ⅱ

「21世紀・北海道の将来を展望する」

本学経済学部では、生活協同組合コープさっぽろ様の寄附を受け、平成19年度後期に引き続き経済学部特別講義として「コープさっぽろ寄附講座Ⅱ」を開催しました。今後も厳しい状況が予想される北海道経済ですが、21世紀の「フロンティア・スピリット」の実践の道標として、学生のみではなく、広く一般市民にも公開講座として受講され大変好評を得ました。さまざまな分野で活躍されている北海道内外の有識者をお招きして、「北海道の発展シナリオ」をご講演いただいた成果は、「21世紀・北海道を展望するⅠ」の講演集発刊に続き出版される予定です。

4/18	大見 英明（生活協同組合コープさっぽろ理事長）
4/25	佐々木亮吉（アールセミナー代表取締役・元北海道副知事）
5/2	山本 良一（東京大学生産技術研究所教授）
5/9	西川つかさ（脚本家・作家）
5/23	宮村 正夫（北海道漁業協同組合連合会代表理事副会長）
5/30	宇平 直史（日本銀行札幌支店支店長）
6/6	鈴木 豊（キュービー株式会社代表取締役社長）
6/13	細川 修（北海道中小企業家同友会専務理事）
6/20	湯浅 優子（「つっちゃん」と優子の牧場のへや」オーナー）
6/27	浜田 哲（美瑛町町長）
7/4	丹羽宇一郎（伊藤忠商事株式会社取締役会長）
7/11	小泉 武夫（東京農業大学応用生物化学部教授）



経済学部特別講演会 [平成20年7月4日]

「オルター・グローバリゼーション

——世界市民が主人公のグローバリゼーションは可能か？——

Susan George ●スーザン・ジョージ氏

市民の意思を反映しない先進国によって主導される企業利益最優先の「グローバリゼーション」は、経済格差や環境破壊などの諸問題を世界中に拡散し続けている。このような問題の解決方法とオルター・グローバリゼーションの可能性について、ATTACなど様々な国際的市民活動ネットワーク作りに多くの経験を持ち、世界的にも著名な氏に、講演していただいた。



経済学部のホームページがリニューアルされました